

# 組織目標評価報告書（平成29年度）

部局名：

グローバル人材育成院

部局長名：

神崎 浩

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>④センター業務</b>	
<b>④-1 目標</b>	<b>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度から実施する新カリキュラムの効果について検証する。</li> <li>・平成30年度からコース定員が150名に増加するのを見据え、平成29年度から4つのグループに分かれて履修するコース編成の教育効果を調査する。</li> <li>・グローバル人材に必要な能力の再検討を行う。</li> <li>・グローバル人材育成特別コース生が各学部の先導的なグループとして全学に及ぼす波及効果について継続して検証する。</li> <li>・グローバル・ディスカバリー・プログラムの開設に向けてプログラムの構築や入試実施等に参画し、また、開設後は円滑な実施・運営に協力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル人材育成特別コース(以下Gコース)のカリキュラムについて、平成29年度新カリキュラムに伴う教育効果を検証し、カリキュラムの改正を実施した。改正の一部は平成29年度第3学期から実施した。改正の柱は(1)「英語力養成プログラム」基礎から応用へ段階的に難易度が高まるカリキュラムの履修運用の見直し(語学力の異なるグループごとに細やかな履修指導を行う)(2)「グローバルコア1」体系的なカリキュラムの構築(グローバル人材育成院専任教員開講科目を核とし、教養教育科目で構成する科目群、留学生と共に受講できる英語実施科目をそれぞれ種別化することにより、異文化・日本文化・自然科学およびグローバル社会の在り方を理解するためのカリキュラムを明確化した。)(3)留学後の専門的な学習(外国語による科目)の充実、特に論理的思考力や想像力、創造性を養う科目としてグローバル人材育成院専任教員による「Creativity, Critical Thinking &amp; Innovation」を新設、より効果を高めるため当初の予定より開講時期を早めて平成29年度第3学期から開講した。</li> <li>・平成29年度に導入した語学基準の異なる4つのグループ制による教育効果について語学力を検証したところ、1年次12月に実施するTOEICで600点以上のスコアの割合が前年度より約10%も増加していることがわかり、1年次が履修する英語力養成プログラムにおいてグループを活用したクラス編成を取り入れたことによる効果が考えられる。</li> <li>・カリキュラム改正と平行し、「グローバル人材に必要な能力とは何か」について再検討を行った。本学が平成28年度から新制度として開始した『高度実践人』にGコースから28名(認定者数81名の3割を占める)が認定されたが、この割合はGコースの認定対象者が59名に過ぎなかったことを勘案するとかなり高い確率で認定者として選考されていることがわかる。このことはGコースのカリキュラムがグローバル人材の育成に非常に優れたプログラムであることを示していることから、グローバル人材として必要な能力を身につけるだけでなく、その力を実践的に活用できるような人材を育成することを念頭に置いてカリキュラム改正に取り組んだ。</li> <li>・Gコース生は各学部の先導的な役割をすでに果たしていることから、さらに裾野を広げるために各学部の専門学習をベースとした新たな教育プログラムを提案した。</li> <li>・グローバル・ディスカバリー・プログラムとの連携では、実施・運営に協力するとともに、Gコースへの受入体制を整えた。また、Gコースカリキュラムのグローバルコア1の英語実施科目において、グローバル・ディスカバリー・プログラムのカリキュラム、また本学の交換留学プログラムEPOKで受け入れる留学生のカリキュラムと相互履修できるようカリキュラム改正を行い、今後の教育効果を高めるべくグローバル・ディスカバリー・プログラムおよびグローバル・パートナーズとの連携を強化した。</li> </ul>
<b>④-2 全学の組織目標との関連</b>	<b>④-2 大学全体への貢献</b>
<p>大学として定める中期計画の整理番号6と52では、グローバル教育体制の整備を目標としている。この目標達成のためには、グローバル人材育成特別コースの魅力アピールし、コース定員の増加に伴うコース履修者の安定的な確保、かつ、さらなる増加策に対応する必要がある。そのために、新カリキュラムの効果の検証、コース編成の教育効果の調査、また、グローバル人材に必要な能力の再検討、さらにコース生が各学部の先導的なグループとして全学に及ぼす波及効果の検証を行う。</p>	<p>Gコースはその設計段階から、大学全体への教育効果をもたらすことが期待されている。コース定員は設置当初の50名から平成29年度までに100名まで増加、コースの魅力伝える広報活動もオープンキャンパス、入学式といった各種行事のほか、ホームページやFacebookなどのコンテンツの充実をはかってきた。また、平成29年度に導入した4つのグループ制では個々の学修計画に合わせた海外派遣を可能とする柔軟性のあるカリキュラムも整備した。これらの結果、現在は全ての学部からコース志願者が集まり、安定したコース履修生の確保が可能となり、増加を続けるコース履修生を受け入れる教育体制も拡大、本コースは先導的役割から、全学体制での教育へとすでに移行しつつある。</p> <p>また、本コースはグローバル・ディスカバリー・プログラムと並び、本学のグローバル教育の中核的役割を担い、海外派遣をめざすカリキュラムは、語学力だけでなく「日本文化」「異文化」「自然科学」「グローバル社会の在り方」への関心・知識・理解を深め、留学に向けてしっかり準備できる教育プログラムとなっていることから、本学の海外派遣の促進に大きく貢献している。留学を経て成長したコース生はさらに国際的な課外活動に取り組み、本学高度実践人にも多くのコース生が認定されている。このようなコース生の活動実績は後年の学生および全学の学生に少なからず影響を与えている。今後は、部局と連携したグローバル教育を促進する役割が期待される。</p>
<b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<p>グローバル人材育成特別コースの定員と現員            グローバル人材育成特別コースの学部等別履修申請者数            グローバル人材育成特別コースのカリキュラム表、シラバス、履修案内            グローバル人材育成特別コースの開講科目別履修登録者数            グローバル人材育成特別コースのサマー・スプリングスクールと海外留学・インターンシップの整備状況            グローバル人材育成特別コースのグローバル・コア2(各学部開講科目)の整備状況            グローバル人材育成特別コース履修者に対するアンケート            グローバル人材育成特別コース履修者のTOEIC L&amp;R-IP点数            グローバル人材育成特別コース履修者の単位修得状況</p>	<p>定員と現員：定員を上回る応募があった。            学部等別履修申請者数：本年度は歯学部が0人であった以外は履修者があった。            カリキュラム表、シラバス、履修案内：適切に行なった。            開講科目別履修登録者数：通知等の結果、適切な登録となった。            サマー・スプリングスクールと海外留学・インターンシップの整備状況：整備した。            グローバル・コア2(各学部開講科目)の整備状況：これまで未実施の学部の学部も開講した。            アンケート：アンケート調査を行い、分析した。            TOEIC L&amp;R-IP点数：1年生について、平均点は大幅に上昇した。            単位修得状況：4つのグループ制導入に伴い、英語の事前履修希望登録を新たに取り入れたことにより、年間を通じた履修計画をたててコースの学修に取り組めるようになった。また、学期ごとに細やかな履修指導を行った結果、英語の未履修者が大幅に減少し、前年度より良好な単位修得状況となった。</p>
<b>【総括記述欄】</b>	
<p>グローバル人材育成特別コースは、第二期生が平成29年度卒業となる。第三期生は定員が50名から100名に増えた最初の年度でもあり、在籍者数増加および本学が平成28年度に全学で開始した60分4学期制への制度変更に伴い、様々な改革が必要となった。現在のコース在籍学生には適切な履修指導を行うことで、より効果的な学習効果をもたらした。コース生で高度実践人に認定される者が多かったのは、その証拠と言える。今後については、これまでの取組みをさらに広げ、より多くの学生がグローバル人材となるような制度を整えた。</p>	